

# おたけ騒動

根本幸雄

一、騒動の始末

1. 発端

\*元禄の頃、猪、鹿の被害甚大

\*上総国 不入斗村、片又木村、姉崎村、豊成村、立野村

天羽田村、迎田村、深城村、永藤村……九ヶ村

\*元禄八乙亥年（一六九五）八月十三日

\*深城村大須林山

\*望陀郡長谷川村 惣兵衛

\*深城村百姓九左衛門妻「たけ」

\*「たけ」の兄、望陀郡新田村、作右衛門

\*椎津村、白塚村、朝山村

2. 発覚 元禄八年の暮頃か？

3. 江戸呼出と吟味 勘定奉行 萩原重秀

時代背景

4. 処分決定 元禄九年の中頃か？

望陀郡長谷川村 惣兵衛 死罪

不入斗村 縫之丞 遠島（伊豆大嶋）

片又木村 次郎右衛門 全 右

姉崎村 弥右衛門 全 右

姉崎村 次郎兵衛 遠島（伊豆大嶋）

豊成村 甚太夫 全 右

” 重兵衛 全 右

立野村 半十郎 全 右

天羽田村 太郎兵衛 牢 死

迎田村 七郎兵衛 遠島（三宅嶋）

深城村 九左衛門 全 右

新田村 作右衛門 牢 死

深城村 七郎右衛門 牢 死

永藤村 長右衛門 追 放

白塚村 庄兵衛 全 右

深城村 伊作 全 右

椎津村 作右衛門 全 右

朝山村 与左衛門 全 右

深城村 太郎兵衛 全 右

” 善右衛門 全 右

尚、罪人の家屋敷、田畑山林は關所

5. 赦免嘆願の事

\*姉崎村 市兵衛

\*関係各村の連名にて

\*姉崎屋四郎左衛門の尽力について

6. 赦免

\*流罪の者 宝永三年（一七〇六）

\*追放の者 宝永五年（一七〇八）

\*牢死三名 流罪中死亡三名 追放中死亡四名

二、流人について

\*流人船

\*三宅嶋流人帖より

\*元禄十丑年十二月二十七日。三宅嶋流人十六人。

\*本国生国共に上総国朽木和泉守様知行所

深城村九左衛門 年四十六歳（真言宗）

此九左衛門、脹満にて午四月二十九日相果申候  
（元禄十五年）

御科 鉄砲にて人打殺に付

\*本国生国共に右同断。御同人知行所迎田村。

七郎兵衛 三十六歳（真言宗）

此七郎兵衛宝永三年九月御赦免

大島新兵船にて出嶋

御科 鉄砲にて人打殺候に付

\*元代官伊奈兵右衛門 七十一才

元禄十二年正月六日死去  
（ひきまけり）

御科 引負

\*当時の三宅嶋

家数 百三十軒

総人口 九百五十二人 男四百六十八人

女四百八十四人

〔正徳四年（一七一四）書出し〕

\*年貢 塩 九百九十俵（三斗五升入）

\*伊ヶ谷村……伊ヶ谷港

\*大林寺（浄土宗）

\*流人の生活

別冊 家持流人 小屋持流人 門附流人 見継

内証文

\*嶋よりの消息文三通紹介（根本七郎兵衛）

I. 度々啓上

II. 正月十八日御状

III. 霜月廿六日之御状

I. 度々啓上

度々啓上仕候へ共、終二御返事も無御座、無心元奉存候。弥御無為二被成御健二候哉承度存計二候。此方そく才。然は、何二ても其元不参候故、かつめいに及二付、姉前や四郎左衛門殿え申進候へハ、米五斗式升入壺俵取替被下、それ二て毎度きるい質二置候ヲ、半分請出し、当分ハ一切給候もの無御座、扱々なんき申候。其元何れ様内二て久兵衛殿預ケ之品々せんさく被成、四郎左衛門殿迄届置可被下候。久兵衛殿被成様二世迄うらミ存候間、何れ様内二て態々成共御こし被成、久兵衛殿大屋、五人組二断埒明可被下候。我等ヲ無縁、今□二なき者二仕候間、偏二頼上候。毎度申遣候通、久兵衛殿所二六月より二月迄二宿払三両三分余払、増右衛門殿立会二て埒明申候。久兵衛殿毎申様二ハ、月二壺分か、扱月二二拾匁くらい二てハ不苦様二申し進、大方金払其上に物ふらち申候事、扱々口惜奉存候。かならずくせんさく被成可被下候。久兵衛殿預ケ。

(味噌) 一みそ壺樽 (一箱) 一ひつ壺ツニひやくし共 (一硯箱) 一ほうてう (一小刀) 一手桶ひしゃく (目) かいしやくし (一なべ二ツ) 一たび道具 右之品々穿鑿被成可被下候。早々、以上。

五月廿日

根本七郎兵衛 (花押)

③ 山中源兵衛様 (増力) 石渡□兵衛殿

根本吉兵衛様 同弥五左衛門様

川野九郎兵衛殿 根本大八との

尚々、其元より江戸御こし時分四郎左衛門殿へ能々御頼可被下候。此度爰元より参候船頭二も銭百文被下、其上馳走二罷成候と舟頭我等方へ具二申候。かならずく四郎左衛門殿如在二被成間敷候。将又我等義、家も于今作不申候。くわ諸道具も何二ても支度不申候。なんぎ申候故、其元御相談之上、米二てもむき二ても栗二ても、其元勝手二合力被成可被下候。是ハ宿へ申受候毎度久兵衛殿所へ遣候。なべハちいさく候間、米壺升五合たき一ツ、小なべ壺ツ、醤油樽二みそ壺樽遣し可被下候。頼入申候追て申入候。二月中爰元より市左衛門と申舟頭遣し候所二、久兵衛殿毎申様二ハ七郎兵衛に物□るべし候故、飛脚たて申候故、飛脚日用ちん式百文市左衛門方より取被成候それ等よくくせんき被成可被下候。我等式百文二なんき申、あわせ壺ツうり払申候四郎左衛門殿二ハ我等たより申とて、船頭二銭給候二、扱々うらめしき久兵衛殿二てきる物代金式分埒明申間敷候間、右之きる物御取可被成候。日本神かけ久兵衛殿二くれ不申候。外二差引も無御座候。かならずく頼入申候。

II. 正月十八日御状

正月十八日御状、三月二日二新嶋船便りにて金貳分、増兵衛、安之丞<sup>④</sup>家より参候。御詔新左衛門殿より参候も、引き共慥ニ受取申候津浪二船とられ其後両度迄状越候へ共届キ兼申候。扱又海保村より六ヶ敷いか様義無心元奉存候。然共、御利運ニ相済申候由、乍影大悦申候。左候へハ、事多御六ヶ敷可有御座候共、我等訴訟之義キ様頼奉存候。<sup>⑤</sup>仏神御方便にて今生にて御目かけ申度候。我等も冬中ハ百日程煩、扱々難義仕候。年明随分そく才罷成候。少御氣遣被成間敷候。宮之助殿入筆申候。御袋さまへも宜様頼被下候。此竹筒二三社之絵ニ御座候。随分大事ニ可被成候。諸事絵御望ニ候ハ、御申こし可被成候。此方<sup>⑥</sup>にて随分絵師向安くニ御座候。早々、恐惶謹言。

三月七日

同姓七郎兵衛

根本弥五左衛門様

追て文之印に、少しニツけづり□で少こし申候。

III. 霜月廿六日之御状

霜月廿六日之御状、二月二日二届候段、年内舟便ハ八丈流人二<sup>⑦</sup>そう続候故、奉行衆遠慮にて、正月舟二御紙面之趣慥届申候。先以両親、<sup>⑧</sup>キ様、子供、兄弟子供、不残替義無御座候由、乍影大悦仕候。此方我等<sup>⑨</sup>そく才にて勤候故、かえすく御苦勞ニ被成間敷候。扱又、去年四郎

左衛門殿米御払被下候段、扱々可申上様も無御座候。付て只今ハ酒迄御作被成候段、まんそく申候。<sup>⑩</sup>永々御煩御本腹目出度く存候。將又、米寄合五斗表、并二姉さま御心さし、もち米ももひき包、九郎兵衛二百文、扱々辱奉存候。両親、妻、子供、兄弟衆ニ御厄分之上ハ、此方へハ何二ても御無用ニ可被成候。御状千万ト奉存候間、乍去、此方不叶時分ハ申可進候間其時分ニハ御相談にて見と、<sup>⑪</sup>け可被下候。諸事御訴訟之事かへすく奉願候。片又木七兵衛金済不申段、我等も申進候様ニ御人可遣候。我等義、爰元神主壬生式部殿、殊之外御意ニ入、只今ハ本村より二町計へだて神主殿知行所ニ罷有候。其村名主役人無筆候故、さん用書物之義我等仕候故、諸事勝手能候。只水之義無□用にて、たとへて申ならば、大嶋不動切之ことく成を、八町登石の内にて取候へ共、村中より寄々一両日あへにもらい候故、是もなんき不申候。<sup>⑫</sup>其元さかいあた、か故、我等義も去年中もミ五合まき、すりうす無之故、もみつき仕候へハ、白米九升七合取申候。扱々畑之事能所候へ共、嶋者ハ作様子不存候故、ふかつて候。当年ハ麦、いも、粟、米作可申と存候。それ二ても其元替、扱々風はけしき所御座候。たばこ杯ハ壺年うへ申候へハ、四、五年程ハ其ま、年々かき申候。めてたくく以上。

同七郎兵衛(花押)

根本弥五左衛門様

(註)

① 姉前や四郎左衛門 江戸日本橋小網町一丁目。姉崎村出身の米穀問屋。伴源七。

② 久兵衛 伊ヶ谷村の家主

③ 山中源兵衛——中島村

石渡増兵衛——椎津村

根本吉兵衛——七郎兵衛父

根本弥五左衛門——七郎兵衛弟。今富村名主

川野九郎兵衛——西野谷村

根本大八——七郎兵衛嗣子。後、吉兵衛と稱す

④ 安之丞 迎田村組頭。赦免嘆願書に署名。

⑤ 新左衛門 迎田村組頭

⑥ 絵師 多賀朝湖(英一蝶)

元禄十一年十二月来島。宝永六年十一月赦免。阿古村に住す。

⑦ 壬生式部

幼名巨。宝永七年甲斐守と改む。地役人に神主を兼ねる。事実上の島主。往古、事代主命に隨身して来島せる壬生御館の後裔にして、島第一の名家。

伊豆大島

潮音寺(浄土宗) 元町

過去帳より

寿白信士 元禄十六未十一月四日 流人縫之丞父

恵春童子 元禄十五年四月十四日 流人縫之丞子

(けい) 花馨良天 元禄十五年九月二十七日 流人次郎右衛門事

赤穂義士遺族

元禄十六年(一七〇三) 四月二十九日

宝永三年 (一七〇六) 八月 家綱二七回忌

一、吉田忠左衛門二男伝内(二五才)

二、間瀬久太夫二男定八(二十才) 宝永二年四月二七日死去

三、中村勘助長男忠三郎(十五才)

四、村松喜兵衛二男政右衛門(二三才)

瑤泉院の嘆願により赦免

参考図書

一、市原郡誌(昭和四七年刊) \*林信篤

二、改訂房総叢書(史伝②) \*荻生狙徠

\*市兵衛記 \*記義奴市兵衛事

三、市原市史 中巻

四、宝永二酉年正月 上総国市原郡姉ヶ崎村

樋口又兵衛御代官所 土民市兵衛記事

五、三宅島流刑史 池田信道

六、伊豆大島志考 立木猛治

七、三宅島の歴史と文化 浅沼金一郎

八、伊豆七島流人史 大隅三好

九、伊豆七島歴史散歩 伊佐九三四郎

十、江戸の刑罰 石井良助

十一、伊豆諸島の歴史 段木一行

十二、島の史跡（大島編。東京都教育庁大島出張所）

十三、三宅島（旧神着村）根元六十軒百姓を中心とする民家系譜

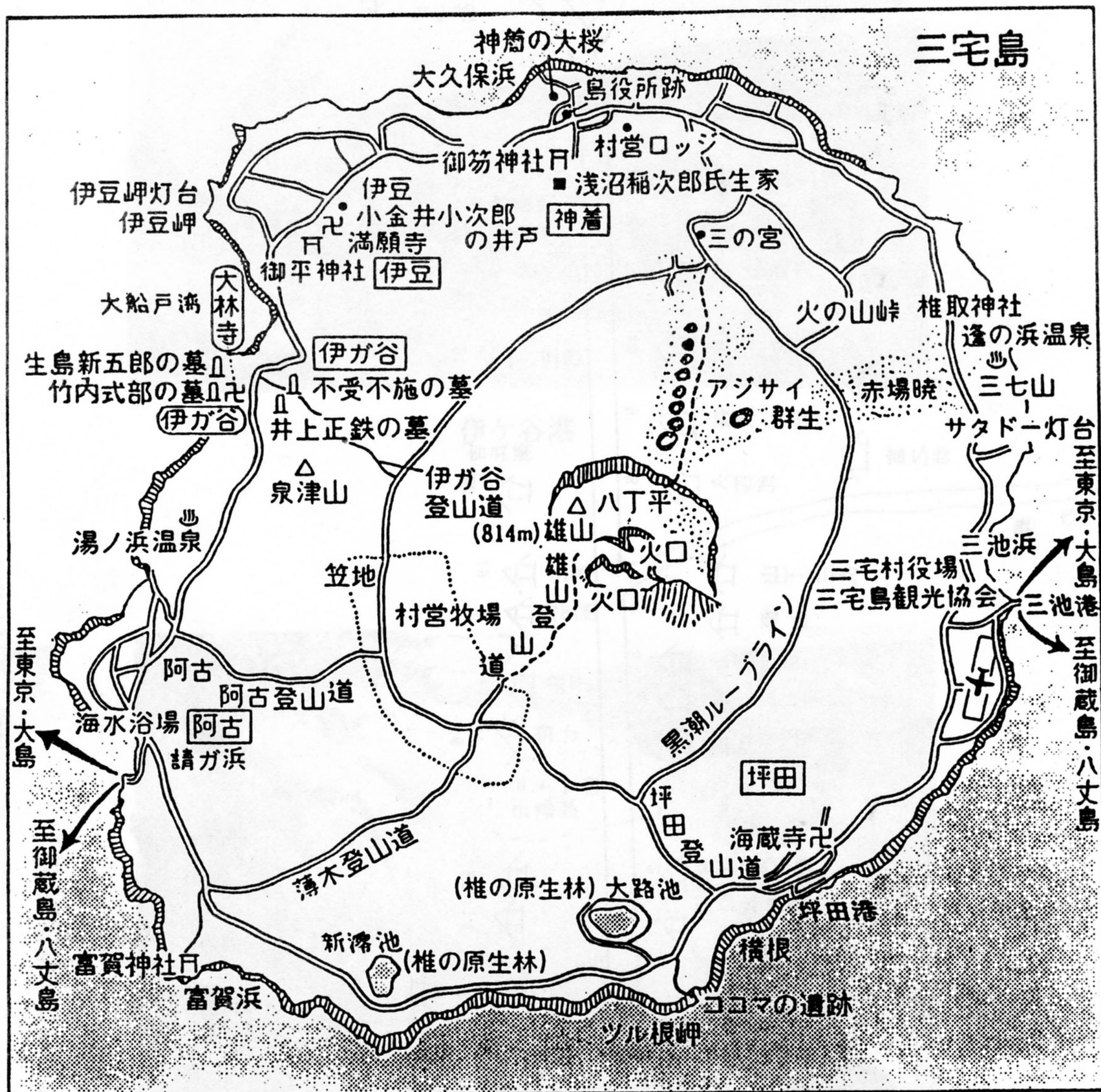
参考資料

迎田根本幸雄家文書



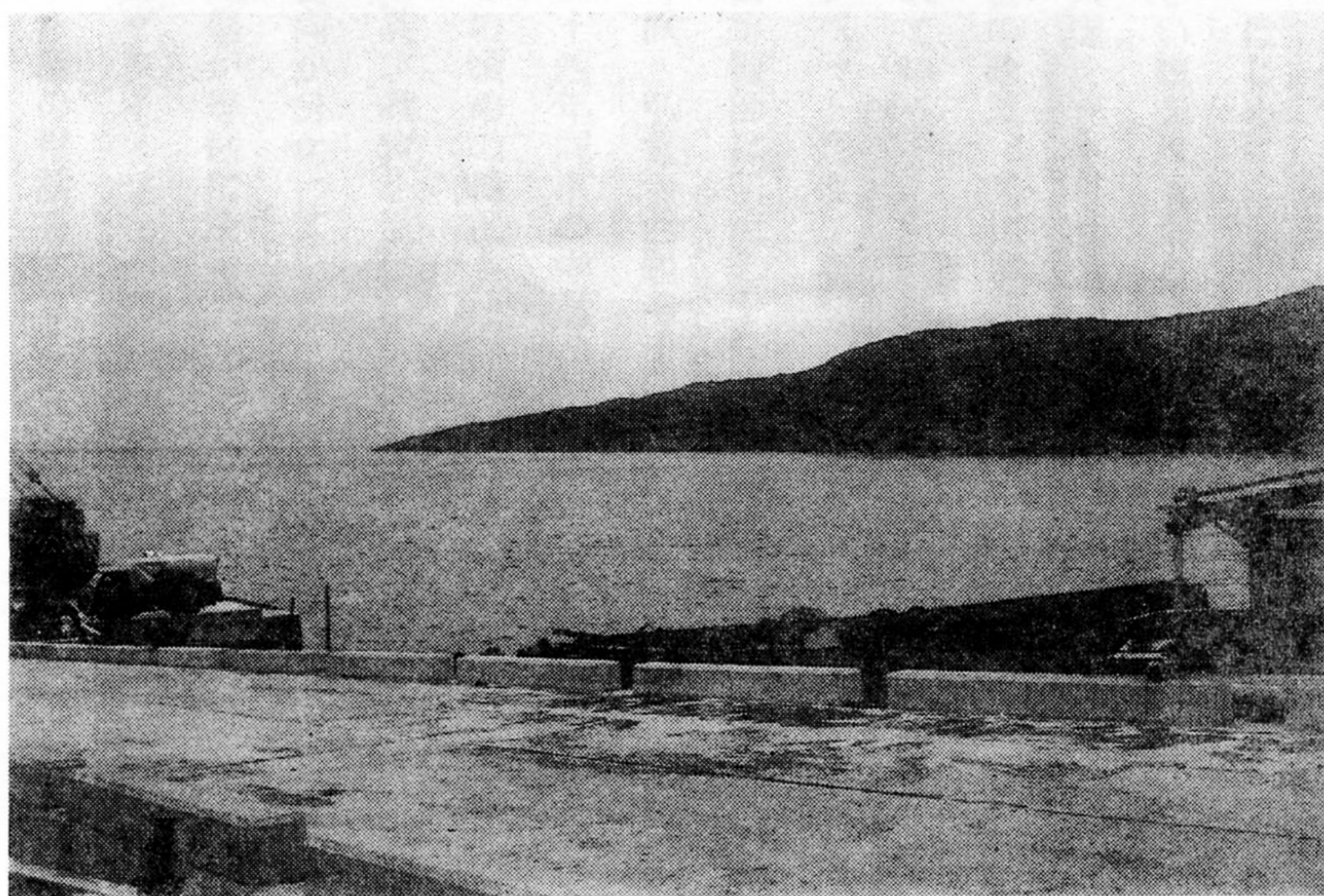
義僕市兵衛の墓

[illegible]

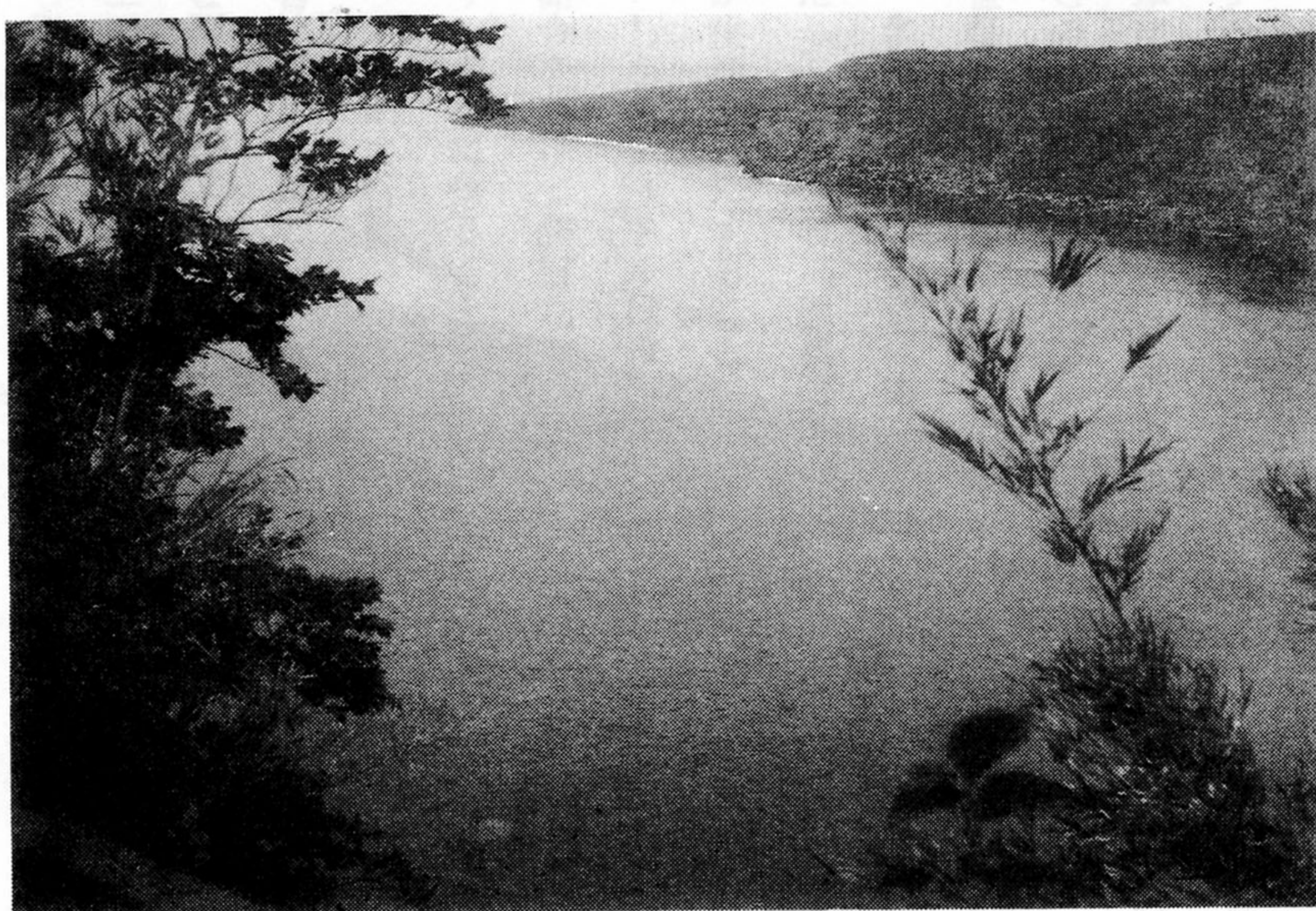


( 故 浅沼竹次郎翁調書に拠る )

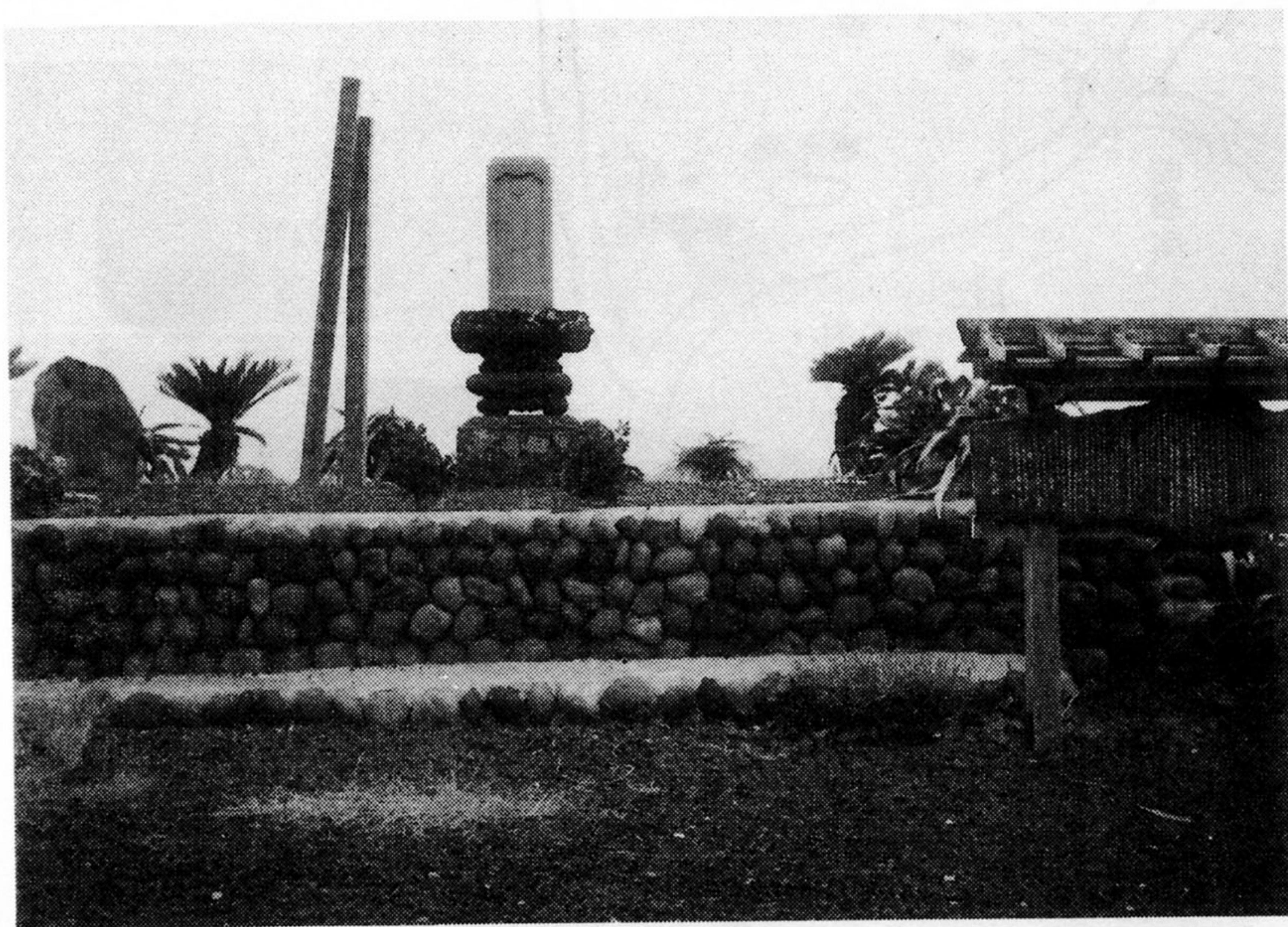




伊ヶ谷港



伊ヶ谷村よりの俯瞰



生島新五郎の墓



大船渡湾

平成八年十一月二十四日

## 姉崎ゆかりの人物

市原市地方史研究連絡協議会

会長 田中喜作

事務局 滝本平八

市原市能満二〇八九

電話 七四―一四八四